

船舶事故等調査報告書

平成27年2月5日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014長第75号
事故等種類	乗揚
発生日時	平成26年8月15日（金） 05時30分ごろ
発生場所	熊本県 ^{れいほく} 苓北町九州電力苓北発電所北方の海岸 苓北町所在の九州電力苓北発電所専用港西防波堤灯台から真方位 072° 1,400m付近 （概位 北緯32° 29.4′ 東経130° 02.7′）
事故等調査の経過	平成26年8月19日、本事故の調査を担当する主管調査官（長崎事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	モーターボート ^{けんとう} 健斗丸、3.08トン
船舶番号、船舶所有者等	293-39996熊本、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型船舶操縦士
死傷者等	なし
損傷	船底外板に亀裂、船尾管を破損、主機が濡損
事故等の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、熊本県上天草市から関西方面に向けて回航中、航海灯の設備がなく夜間航行ができなかったため、平成26年8月14日19時ごろ、翌朝まで待機するため、九州電力苓北発電所（以下「本件発電所」という。）専用港に入り、同港西防波堤近くで、船首を南方に向けて錨泊した。</p> <p>船長は、操舵室の椅子に座って眠っていたところ、船底を擦る音に気付いて目覚め、錨を揚げて機関の始動を試みたが果たせず、南西からの風波を受けて北東方向に圧流され、15日05時30分ごろ、本船が船首を北方に向けて本件発電所北方の海岸に乗り揚げた。</p> <p>船長は、110番通報を行った後、なおも機関の始動を試みたが、船体が左右に大きく動揺するようになったので危険を感じ、自力で上陸した。</p> <p>本船は、来援した地元船舶により08時過ぎに引き下ろされて離礁し、同船にえい航されて苓北町富岡漁港に着岸した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風向 南西、風速 約7m/s、視界 良好</p> <p>海象：波向 南西、波高 約1.5m、潮汐 低潮期</p> <p>日没時刻：19時05分ごろ</p>
その他の事項	船長は、平成26年8月6日に操縦免許を取得しており、それまで、友人と共に関西方面でモーターボートに乗船したことはあったが、単独で操縦した経験はなく、熊本県天草周辺で乗船したこともなかった。

	<p>船長は、本船を上天草市から関西方面へ回航するに当たり、事前に海図又はモーターボート用参考図を用意していなかった。</p> <p>船長は、GPSプロッターを見ながら九州及び四国の南岸沿いに航行し、紀伊水道を経て、3日間で関西方面に至る予定としていたが、途中の港湾や水路などの状況を調査しておらず、詳細な航海計画は立てていなかった。</p> <p>船長は、本件発電所専用港で錨泊する際、船首から約30kgの錨を投入し、錨索を約20m延出していた。</p> <p>海図W1476によれば、本船が錨泊した場所付近の水深は約15mで、底質は砂である。</p> <p>本船は、本事故後の調査で、機関始動用のバッテリーが劣化していたことが判明した。</p> <p>本船は、圧流された際、投錨したが、錨と錨索を接続していたシャックルのピンが抜けて錨を失った。</p> <p>本船は、船尾喫水が約1mであった。</p>
<p>分析</p> <p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象等の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>あり</p> <p>本船は、本件発電所専用港で錨泊中、南西からの風波を受けて走錨した際、始動用バッテリーが劣化していて機関を始動できなかったことから、本件発電所北方の海岸に向けて圧流され、同海岸に乗り揚げたものと考えられる。</p> <p>本船が走錨した状況については、明らかにすることができなかった。</p>
<p>原因</p>	<p>本事故は、本船が、本件発電所専用港で錨泊中、南西からの風波を受けて走錨した際、機関が始動できなかったため、本件発電所北方の海岸に向けて圧流され、同海岸に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
<p>参考</p>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小型船舶で航行経験のない海域を航行する場合、海図やモーターボート用参考図を用意し、航行予定経路の港湾や水路の状況を調査して、詳細な航海計画を立てること。 ・ 発航前点検を励行すること。 ・ 錨泊する場合は、風波の影響が少なく海底が錨かきの良い場所を選ぶこと。